

## 演習名：社会問題の社会学演習

仁井田典子 (nniita@shudo-u.ac.jp)

**演習内容：**社会学において社会問題とは「これが問題である」と異議を申し立てる人たちによってつくられていくものであり、「何が」「どのように」社会問題として認識されるのか／認識されないのかについては、時代や場所などによって大きく異なります。

この演習は、すでに社会問題として広く認識されていることに限らず、履修者のみなさんが日常生活のなかで気になっている社会現象について、社会的にとらえられるようになることを目的とします。授業では、社会学とはどのような学問であるのかについてイメージできるようにするための共通の文献を履修者全員で読み、議論をしていきたいと思います。

**評価方法：**授業への参加度、授業内での発表、期末レポート

**履修者のみなさんをお願いしたいこと：**

- ①日常生活における出来事や事件、人の集まり、流行りといった社会現象に興味を持つこと
- ②指定された文献を読んで、準備をして演習にのぞむこと

**担当教員の研究紹介：**

労働や雇用の変化によって生じる「生きにくさ」を社会問題として捉えていきたいと思い、研究を行ってきた。

①社会問題の当事者とされる人たちによってつくられている集まりや集団における参与観察調査を用いた研究では、ジョブカフェ（行政によって設置された若者の就業支援を行う施設）を介して自発的な集まりを形成する若者のグループや、個人で入れる労働組合（コミュニティ・ユニオン）に集う女性たちの活動や労働運動におけるフィールドワークを通じて、社会問題の当事者とされる人たちの在り様と彼ら／彼女らが直面している困難や問題を社会的な問題として明らかにしてきた。

②社会問題の当事者とされる人たちや労働運動に関わる人たちに対するインタビュー調査を用いた研究では、不安定な就業状況にある人たちやコミュニティ・ユニオンにかかわる人たちが直面している困難を自己責任として帰着させてしまう「生きにくさ」を個人化社会の問題として提示してきた。

今後はフリーランスとして働く人たちにも注目し、彼女／彼らが抱える「生きにくさ」や困難に加えて、彼女／彼らがどのようにして生活を成り立たせているのかについてみていきたい。また、日本だけではなく、東アジアにおける女性たちの社会運動を視野に入れて現代社会を考察していくことを通して女性の多様な生き方を模索していきたいと考えている。

**共著：**

文貞實編著『コミュニティ・ユニオン—社会をつくる労働運動』（「第7章個人的なやりがいや楽しみが活動へとつながる—女性組合員たちのユニオン活動への参加動機」）松籟社。  
北川由紀彦ほか編『社会をひもとく—都市・地域にみる社会問題の問い方』（「第3章『女性と貧困ネットワーク』の30代の女性たちにみる『女性の貧困問題』」）有斐閣。

中根光敏ほか編著『社会学で考える』（「第2章大卒者の就業について考える」「第5章『自己責任』を社会問題として考える」）松籟社。